

古写真からたどる深江



阪神深江駅（昭和8年頃）



深江浜・沿岸部の景観（現在）

会期・会場一覧（入場はいずれも無料）
2018

- 7. 30 Mo. ～ 11. 9 Fr.** 神戸大学海事博物館
（深江キャンパス：コレクション展 開館日時：月・水・金 13.30-16.00。8/10-8/21は休館）
- 8. 1 We. ～ 9. 28 Fr.** 神戸大学社会科学系図書館
※同時開催「神戸大学の文化財建造物-山口誓子記念館を中心として-」
（六甲台キャンパス 開館日時：月～金 8.45-21.30, 土日 10.00-19.00 8/11、8/13-15、9/2、9/17、9/24は休館）
- 11. 26 Mo. ～ 2019 1. 31 Th.** 神戸大学百年記念館
（六甲台キャンパス 開館日時：月～金 9.30-17.00 年末年始を除く）



戦前の深江（神戸高等商船学校と住宅地、大正・昭和期）

はじめに

神戸大学海事博物館の所蔵資料などを紹介する小企画展として、コレクション展を開催いたします。この展示会は神戸大学サテライト巡回展として、六甲台キャンパスでもパネル展示されます。

神戸大学深江キャンパスのある深江は、マンションや工場が立ち並ぶ都会の一角であると同時に、昔からの神社や地蔵、古道なども大切に残されています。今回は、古い写真と現在の街並みを対比させ、深江の近代以降の歩みをたどる内容としました。本展示にあたり、貴重な写真資料を提供いただきました、神戸・深江生活文化史料館に深く感謝申し上げます。

主催：神戸大学海事博物館

【解説】

深江という場所：土地の履歴と景観からの思考

近世にあった深江村は、明治の市制町村制によって西青木村、青木村と合併し、本庄村が誕生します。それまでの農村から、次第に住宅や工場が立ち並び、川崎商船学校の創設以後は、海技者を目指す多くの若者も集まるようになります。戦後は戦災復興のなか、神戸市に合併して神戸市東灘区となり、現在まで工業都市、港湾都市として成長しています。現在の深江周辺は若者や、工場で働く外国の人などが集まります。深江で見られる景観は震災以降も日々、変化を続けています。



明治の深江(陸地測量部 1884年測量)
現在の深江(国土地理院電子地形図(タイル))

受け継がれる神社と移り変わる景観

本庄村を構成した、かつての西青木村・青木村・深江村には、古くから春日神社、八坂神社、大日霊女神社がそれぞれ祀られています。阪神間における都市化や工業化の進展の一方で、戦災や震災といった災厄に見舞われつつも、その度に街の力を取り戻しながら、深江の街は時代と共に大きく変貌してきました。

しかしながら現在にいたるまで、神社の場所そのものは変わっていません。3つの神社は、近くに暮らす住民の地域信仰の場でありつつ、祭りなど人々が交流する機会を創出する地域振興の場として、大切にされています。変わらず地域に在り続けてきた神社を基点に、深江の景観変化をみることで、人々の繋がりの場として維持継承されてきた、神社の姿がみえてきます。(E)

大日霊女神社と人びとの関わり

かつてこの深江地域では、さまざまな神さまたちが広く信仰されていました。しかし神さまたちを祀っていた神社や祠のなかには、近代以降の都市計画の影響で失われるものも多くありました。深江にあった信仰のカタチを次代につなぐため、神さまたちは、現在は大日霊女神社に集められ、大切に祀られています。

大日霊女神社(通称:大日神社)は、古くから「大日ツァン」と呼ばれ、深江の人たちに親しまれ、心の拠り所となってきました。深江の人たちと大日霊女神社の長い歴史が、神々の集う場という新たな役割の背景にあると考えられます。実際に、文化財保護法の後押しもあってか、神さま以外にも、道標・記念碑・石碑などの石造物が「深江史の庭」として神社の一角に集められています。

大日霊女神社にまつわる神さまたちと、深江の人たちとの関わりを、「深江地域の民俗性」・「年中行事」・「神さま」の3点に着目してまとめました。(T)

魚屋道：明治～大正の変化と深江との関係

魚屋道は、江戸初期から灘地方と有馬を結ぶ、東六甲の山越えルートの一つです。魚屋道という名称が使われだしたのは、深江浜の新鮮な魚を有馬に運ぶようになった明治以降です。有馬への鉄道路路が整備されてから、徐々に使われなくなり、大正時代以降は、忘れられた道となりました。それでも深江の人びとにとって、魚屋道が大きな役割を果たした時期があったという事実は重要です。

近年は、深江を中心に多くの石碑が造られています。また「太陽と緑の道プロジェクト」以降、六甲山へのハイキングコースとして、以前の魚屋道がまた利用されるようになりました。このように現在でも、魚屋道は深江の人びとの記憶に残る道となっています。(Ma)

大正期から現在までの深江

①「村」から「都市」へ：室戸台風の影響　かつて深江は農業、漁業が主流でした。やがて、経済状況の悪化を受けて活発になった農民運動や園芸作物の試験的栽培、海浜住宅としての開発、日本全体の工業化の流れを汲んだ工場地の増加を経て、都市へと変化していきました。(Mi)

②戦争と深江 戦争に参加した日本は、各地に軍需工場を作りました。深江にも、紫電などを製作する川西航空機甲南製作所が建てられました。それゆえ、深江地域は本土空襲の際に標的となり、多大な被害を受けました。(N)

③戦後の深江 戦後、深江は神戸市に組み込まれて復興政策が行われました。宅地化や団地の建設も進み、50年代以降は阪神間の住宅地として人気を集め、人口が急増するようになります。また、1969年には「深江浜町」の埋め立てが完成して新しく工場が並び立ち、深江は戦前よりもさらに規模の大きな港湾都市となって、復興を遂げました。(N)

④現在の深江 1990年の出入国管理法改定にともない、深江でもブラジルなど南米出身の日系人が急増しました。沿岸部には新たに食品工場が並び立ち、南米のみならず、アジア諸国からの外国人労働者も増加しています。2018年現在もこの地域は外国人出身者の人口が多く、外国人コミュニティも広がっています。(N)

⑤阪神・淡路大震災を伝える 1995年1月17日、兵庫県南部地震が発生しました。深江一帯も大きな被害を受け、現在では景色が一変しています。近年の災害では、都市域の被害が拡大しがちです。23年前の震災に改めて目を向け、街の景観を守る知恵を学びとるべきでしょう。

深江の歴史と文化を伝える

深江村の記憶を継承するため、住民と深江財産区が行った『本庄村史』事業を通じて設けられたのが、神戸・深江生活文化史料館です。住民が寄贈した資料を整理・公開し、深江に残る地域歴史遺産の保存と活用、そして地域文化の次代への継承を目的として、さまざまな活動を続けています。深江での土・日は生活文化史料館へ、そして平日は海事博物館へと是非足をお運びください。

付：神戸大学の文化財建造物 社会科学系図書館会場では（9月28日までの展示です）、六甲台キャンパスに保存されている学内の建造物についてパネル紹介しています。登録有形文化財である本館・講堂や図書館のほか、近代俳句を牽引した山口誓子の旧宅を復元した山口誓子記念館などがあり、現在も幅広く活用されています。

展示資料一覧（パネル所載資料を含む）

	資料名	年代	種別	出典	備考
1	春日神社	2018年	写真		調査者撮影
2	八坂神社	2018年	写真		調査者撮影
3	大日靈女神社	2018年	写真		調査者撮影
4	西青木村絵図	1788年頃	絵図	『本庄村史 地理・民俗編』	
5	西青木村絵図（トレース図）	1788年頃	絵図	『本庄村史 地理・民俗編』	
6	昭和13年の阪神大水害による西青木の惨状 春日神社・関西帆布工場付近	1938年	写真	『本庄村史 歴史編』	
7	青木村絵図	1788年頃	絵図	『本庄村史 地理・民俗編』	
8	青木村絵図（トレース図）	1788年	絵図	『本庄村史 地理・民俗編』	
9	開通したばかりの阪神電鉄の青木駅	1907年	写真	『本庄村史 歴史編』	
10	区画整理前の八坂神社	1963年	写真	『本庄村史 地理・民俗編』	
11	深江住居図（トレース図）	1713年	絵図	『本庄村史 地理・民俗編』	
12	深江村絵図（トレース図）	1788年頃	絵図	『本庄村史 地理・民俗編』	
13	田んぼの中の大日靈女神社	1966年	写真	『写真でたどるふるさと深江』	神戸深江生活文化史料館提供
14	大日靈女神社前の様子（昭和9年建立の大鳥居）	1955-65年	写真	『写真でたどるふるさと深江』	神戸深江生活文化史料館提供
15	山の神の祠（1858年造立）	2004年以前	写真	『本庄村史 地理・民俗編』	
16	昭和32年ごろの深江の戎神社	1980年代後半	写真	『本庄村史 地理・民俗編』	
17	稻荷神社社殿	2018年	写真		調査者撮影
18	山の神の祠	2018年	写真		調査者撮影
19	大日靈女神社社殿	2018年	写真		調査者撮影
20	稻荷祠	2018年	写真		調査者撮影
21	塞の神の祠	2018年	写真		調査者撮影
22	戎神社の鳥居の主柱	2018年	写真		調査者撮影
23	阪神深江駅	1933年頃	写真		海事博物館所蔵

24	1930年頃の深江（神戸高等商船学校遠景）	1931年以前	写真		海事博物館所蔵
25	沿岸部の景観（深江浜町周辺）	2018年	写真		調査者撮影
26	焼失した正門・時計台・本館	1945年	写真	『神戸商船大学五十周年記念誌』	大学文書史料室提供
27	爆撃を受けた川西航空機甲南製作所	1945年	写真	『日本の空襲六 近畿』	
28	東灘日本語教室	2018年	写真		調査者撮影
29	ブラジル食料品店	2018年	写真		調査者撮影
30	ペルー料理店	2018年	写真		調査者撮影
31	ベトナム料理店	2018年	写真		調査者撮影
32	戦前の海岸のようす	昭和初期	写真	『本庄村史 歴史編』	
33	室戸台風で水没した札場通	1969年	写真	『写真でたどるふるさと深江』	神戸深江生活文化史料館提供
34	室戸台風で被災した神戸高等商船学校	1934年	写真		海事博物館蔵
35	大日霊女神社の脇にある魚屋道の碑	2018年	写真		調査者撮影
36	魚屋道と住吉道		図版	『兵庫ふるさと散歩 11 神戸の伝説散歩』神戸新聞出版センター(1983)	
37	有馬温泉への鉄道路開発		図版	原図:酒井祐作(2016)「温泉地の観光化と交通手段の変容－兵庫県神戸市有馬温泉を事例に－」神戸大学文学部卒業論文	
38	有馬温泉への鉄道路開発		図版		
39	深江港に停泊する漁船	1954年	写真	『本庄村史 地理・民俗編』	
40	明治に合併でできた5町村		図版	『うはらの歴史再発見』	
41	旧本庄村役場跡之碑	2018年	写真		調査者撮影
42	1979年頃の深江（白鷗寮と神戸商船大学）	1979年	写真		海事博物館蔵
43	展示室のようす（神戸・深江生活文化史料館）	2018年	写真		2葉;調査者撮影
44	名残りの松（本庄小学校）		写真		調査者撮影
45	踊り松地蔵		写真		調査者撮影 *1
46	『摂津名所図会』「芦屋浦 踊松」	1796年	図版	国立国会図書館デジタルコレクション	
47	深江本町	1995年	写真	阪神・淡路大震災「1.17の記録」	神戸市提供
48	深江北町4丁目周辺	1995年	写真	阪神・淡路大震災「1.17の記録」	神戸市提供
49	「1・17」住民100人救出／市場崩壊すぐ走った／絆の大切さ思い知った	2016年	新聞	『神戸新聞』	複写版
50	踊り松と金毘羅宮（説明版入り）	昭和初期	写真		海事博物館蔵 *2
51	踊り松と金毘羅宮	昭和初期	写真		海事博物館蔵 *1
52	神戸商船大学俯瞰	1959年	写真		海事博物館蔵 *2
53	本庄国民学校西側の空襲被害	1945年	写真	『写真でたどるふるさと深江』	神戸深江生活文化史料館提供 *1
54	卯の葉祭りでの深江だんじりの宮入り（稲荷神社）	昭和初期	写真	『本庄村史 地理・民俗編』	*1
55	深江のだんじり	1996年	写真	『本庄村史 地理・民俗編』	*1
56	かつての高橋川沿い	大正一昭和期	写真	『神戸商船大学七十五周年記念誌』	*1
57	商船大学（河西 英・画）	1952-53年	版画	『神戸港コレクションーよみがえった戦後風景』展図録（2018年）	*1

主要参考資料：神戸商船大学五十周年記念誌編集・刊行委員会編（1971）『神戸商船大学五十周年記念誌』／神戸商船大学七十五周年記念誌編集刊行委員会編（1996）『神戸商船大学七十五周年記念誌』／本庄村史編纂委員会（2004）『本庄村史 地理・民俗編』、（2008）『本庄村史 歴史編』／神戸深江生活文化史料館『写真でたどるふるさと深江』デジタルブック

協力（順不同、敬称略）：神戸・深江生活文化史料館、一般社団法人海洋会、神戸大学・大学文書史料室、社会科学系図書館、山口誓子記念館、誓子・波津女俳句俳諧文庫、人文学研究科地理学教室、大國正美、野邑理栄子、米田恵子、船阪富美子、田中史恵

注）1 国土地理院（旧・陸地測量部）の地形図、空中写真、および書影に関しては省略した。

2 資料番号は展示順とは一致しない。*1は海事博物館会場のみ、*2は社会科学系図書館会場のみで展示。

3 本目録は、神戸大学サテライト巡回展「古写真からたどる深江」の出品資料を記載しました。サテライト巡回展は、文学部文化財学講座が調整し、学内各機関の企画展 PR のためキャンパス内を巡回展示するものです。「古写真からたどる深江」は文学部文化財学講座が授業で取り組んでいる、大学・博物館・図書館の連携による文化遺産調査研究の実践プログラムの、成果報告展を兼ねています。内容の齟齬や遺漏が無いよう努めていますが、学生による学修過程である点、お汲み取り頂ければ幸いです。サテライト巡回展は海事博物館専門員（担当：菊地 真）と文学部・人文学研究科授業「文化財学」「歴史地理学特殊研究Ⅰ」受講生、ならびに博物館ボランティア（井口琢人、河本 歩、戸部愛菜、夷 美香）のサポートにより準備しました。担当者名は本目録にアルファベットにて表記（榎本有莉、松山航平、高須樹音、西堀紗世、宮元運実）。

責任編集：菊地 発行：2018年11月25日第2版 神戸大学海事博物館

神戸・深江生活文化史料館

開館日：毎週土・日曜 10:00-17:00（入館 16:30 まで）入館無料

神戸大学海事博物館

開館日：毎週月・水・金曜 13:30-16:00 入館無料

